

近江國蒲生郡大島神社の條見合すべし

波良波神社

波良波は假字也○祭神詳ならず○仁位郷仁位村に在す、今軍殿と稱す、玉勝例祭

官社

續日本後紀、承和七年十一月庚辰、對馬島波良波神預官社、

下縣郡十三座

大四座小九座

下縣は志毛津阿加多と訓べし、和名鈔、郡名式廿二、兵部下縣、拾芥抄、國郡下縣、府

高御魂神社

名神大

高御魂は多賀美牟須比と訓べし○祭神明か也○豆殿郷豆殿村に在す、玉勝例祭

○式三、臨時祭、名神祭二百八十五座、中略對馬島高御魂神社一座、

類社

山城國乙訓郡羽束師坐高御産日神社の條見合すべし

神位

續日本後紀、承和四年二月戊戌、對馬島下縣郡無位高御魂神奉授、從五位下、三代實錄、貞觀元年正月廿七日甲申、奉授對馬島從五位下、高御魂神從五位上、同十二年三月五日丁巳、授對馬島從五位上高御魂神正五位下、

和名鈔上縣
豆殿郷あり

銀山上神社

銀山上は之路加彌夜麻乃宇倍と訓べし、和名鈔、金銀、假字上の如し○祭神垂仁天皇皇后狹穗姬古殿

○佐頂郷久根村矢立山麓に在す、又大調神社と號す、今五所明神と稱す、古殿例祭

○當郡銀山神社

古蹟集に、矢立山亦名室黑岳、神女棲之、州俗女房神と云、人其神女を見る時、忽狂者となる、不日して死す、故に懼れて山頂に登らず、麋鹿を獵るに、狗敢て嶺上に不入、靈場に至れば、耳を垂、尾を瘦して飯來る云々、舊傳云、女神名は狹穗姬、垂仁帝の后なり、兄狹穗彦謀反て、稻城に籠る、城陥て兄弟逃て津島に隱る、佐頂に居て後此山に移る、獵人誤て后を射る、故に妻隱と云、下縣中の高山神氣の鍾る、此處を第一とすと云り、

雷命神社

雷は伊加豆知と訓べし、和名鈔、神靈、假字上の如し○祭神鳥賊津使主命考○豆殿郷阿連村に在す、

今八龍殿と稱す、玉勝例祭

○日本紀神功皇后

當國社家傳來神名帳云、考證所豆殿雷大明神云々、今豆殿村にて龜卜をする岩佐氏、正月に豆殿村の西なる社に詣て、此神を祭り卜をする也、龜卜は雷命より傳れり、雷命は卜部神にて、神功皇后に隨ひ三韓に渡り、當國に住給ふ、阿連村其住處也と云傳へたり、阿連村に雷神あり、占申も今阿連村より出す也、阿連村は居處なるが故に祭りたるか、